



株式会社オプトラ
2021年12月期
第3四半期決算説明会資料

2021年11月10日

<u>I. 2021年12月期3Q 決算の概要</u>	<u>P 3</u>
<u>II. マーケット動向</u>	<u>P 10</u>



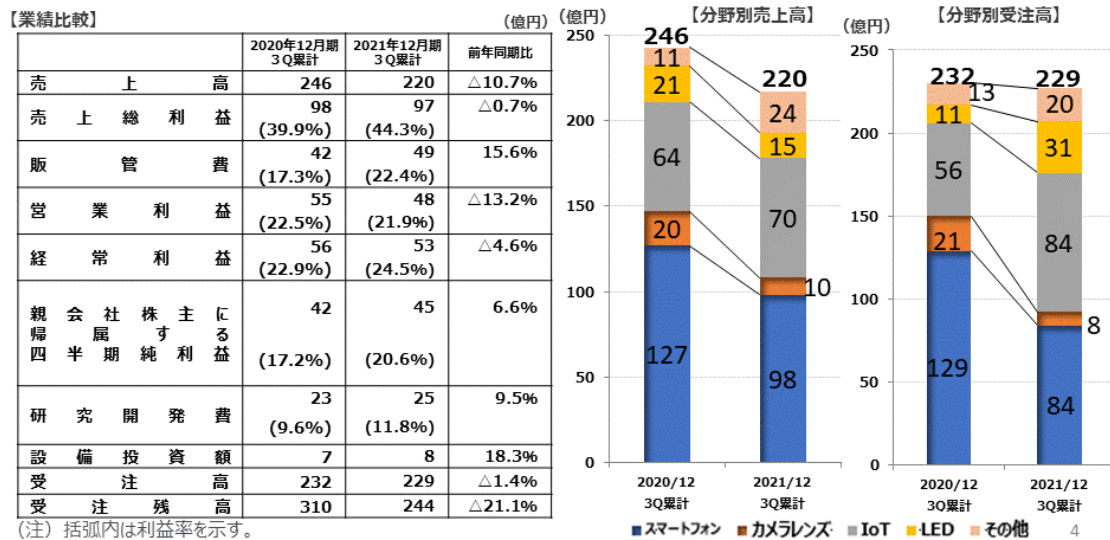
I. 2021年12月期3Q 決算の概要

1. 決算ハイライト (2021年 3Q累計)
2. 売上高内訳推移 (四半期毎)
3. 売上総利益・営業利益 (四半期毎)
4. 受注高 (四半期毎)
5. 連結貸借対照表 (2021年9月末)
6. 業績見通し

1 決算ハイライト (2021年 3Q累計)

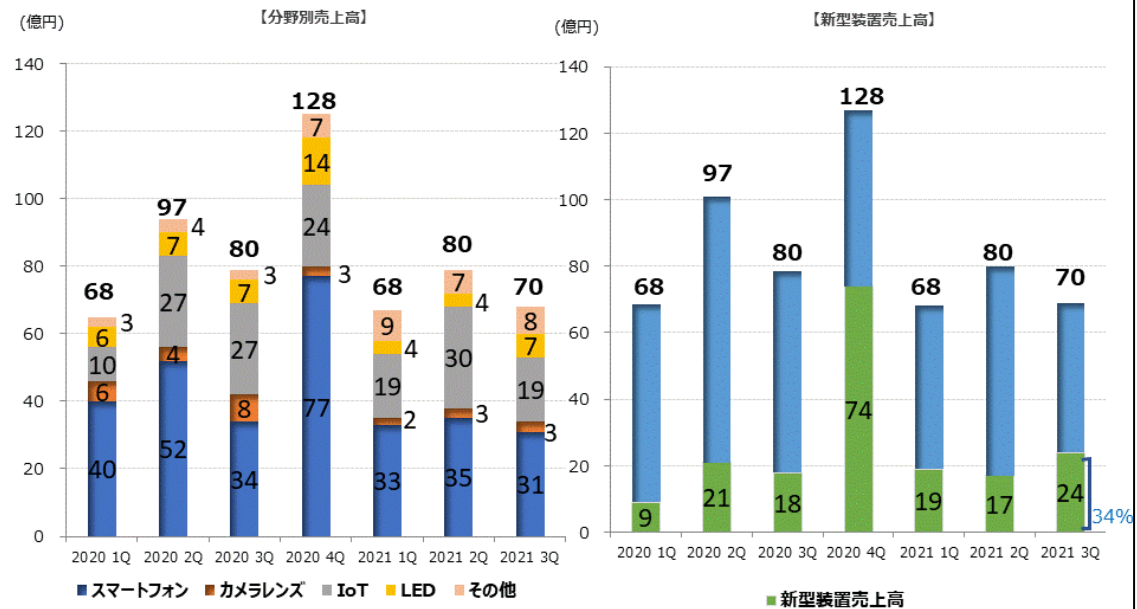


- 2021年 3Q累計の売上高は、前年同期比10.7%減少し、220億円。
- 売上総利益は新型装置売上の貢献により、ほぼ前年同期比水準を確保。販管費は前年比増であるが、ほぼ計画通りに推移。出資金の一部売却に伴う、特別利益8億円計上により、当期純利益は増益。
- 受注高は、世界的半導体不足やコロナ渦により顧客の生産/新機種開発活動への影響が続いたため、前年同期比1.4%減少し、229億円。スマートフォンやLEDは回復の兆しがあり、年末に向けての回復に期待。
- 3Qは、エッチング装置の実用化や、新規大手取引先からALD装置受注獲得等、研究開発活動による成果を発揮。



- 総括すると、3Q累計は受注・売上とも前年同期比減ではあるが、新型装置の貢献が大きくなり、出資金一部売却もあって利益は上回りました。研究開発が加速しALD装置・エッチング装置等新型装置の開発にも成果が出ています。当社関連世界市場が動き出しており4Q以降の受注増可能性が出ています。
- 第3四半期累計の売上高は、前年同期比10.7%減少し、220億円でした。
- 売上総利益は新型装置売上の貢献により、ほぼ前年同期比水準確保しました。販管費は前年比で増えていますが、ほぼ計画通りに推移しました。出資金の一部売却に伴う、特別利益8億円計上したので、当期純利益は増益となりました。特別利益を除くと減益。
- 第3四半期累計販管費率は前年同期比5%増加していますが、この要因は、売上高減に加えて、研究開発費、のれん償却の増加です。
- 受注高は、2Qに続き、世界的半導体不足やコロナ渦により顧客の生産/新機種開発活動への影響が続きました。そのため、前年同期比1.4%減少し、229億円でした。その中でIoTは堅調に推移しています。スマートフォンやLEDは回復の兆しがあり、年末に向けての回復に期待しています。
- 第3四半期は、エッチング装置の実用化や、新規大手取引先からALD装置受注獲得等、研究開発活動による成果を発揮しています。

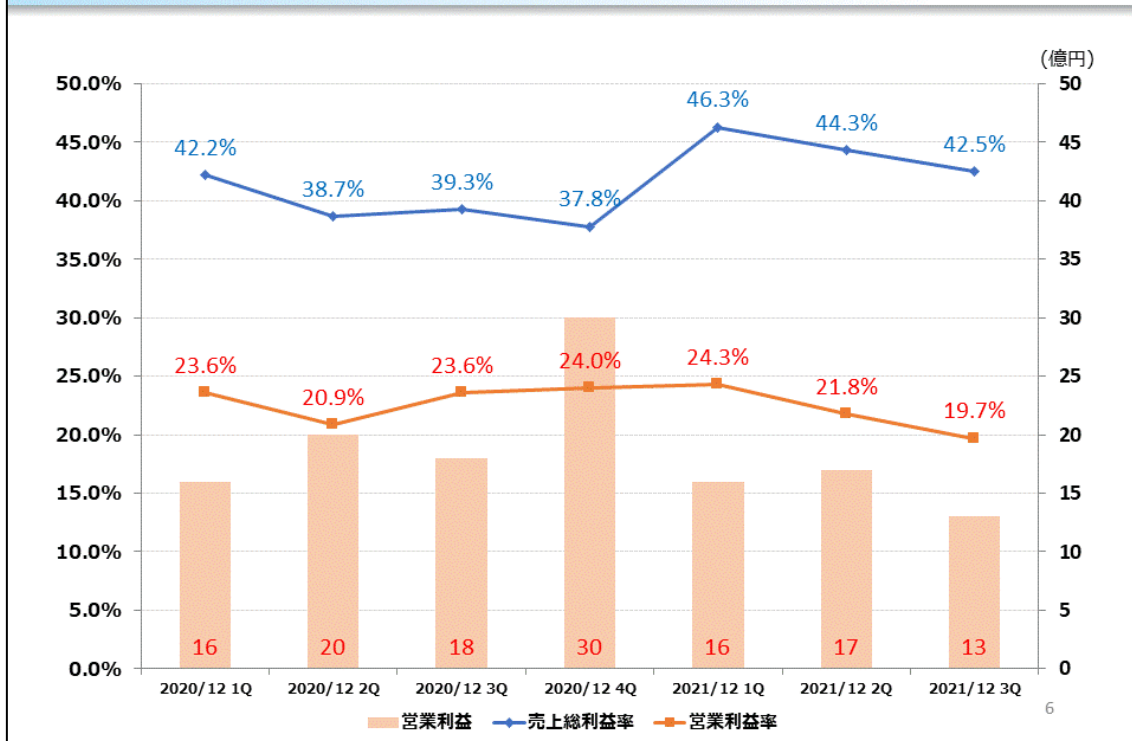
2 売上高内訳推移（四半期毎）



5

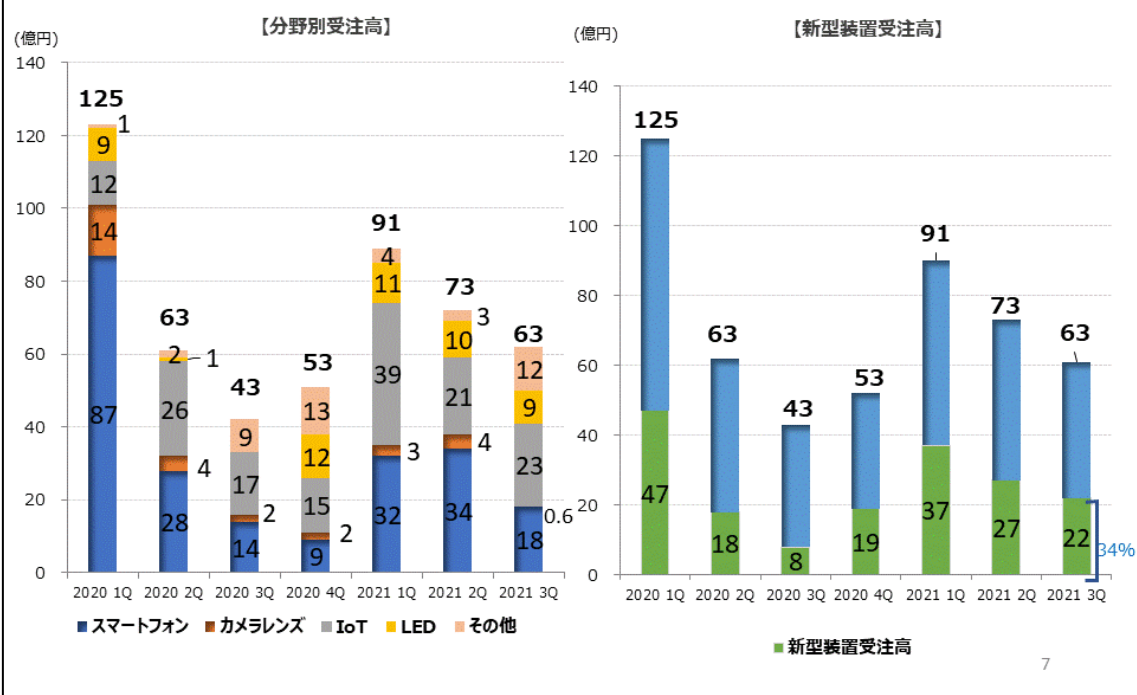
- 売上高の内訳の推移です。第3四半期売り上げは70億円、第2四半期比で12%減となりました。
- スマートフォン売上は、主にカメラモジュール・加飾が中心でした。IoTの売り上げは自動車、光通信が貢献しています。
- 新型装置の売上高比率は34%でした。主にALD、新型スパッタ装置、LED向け等です。

3 売上総利益・営業利益（四半期毎）



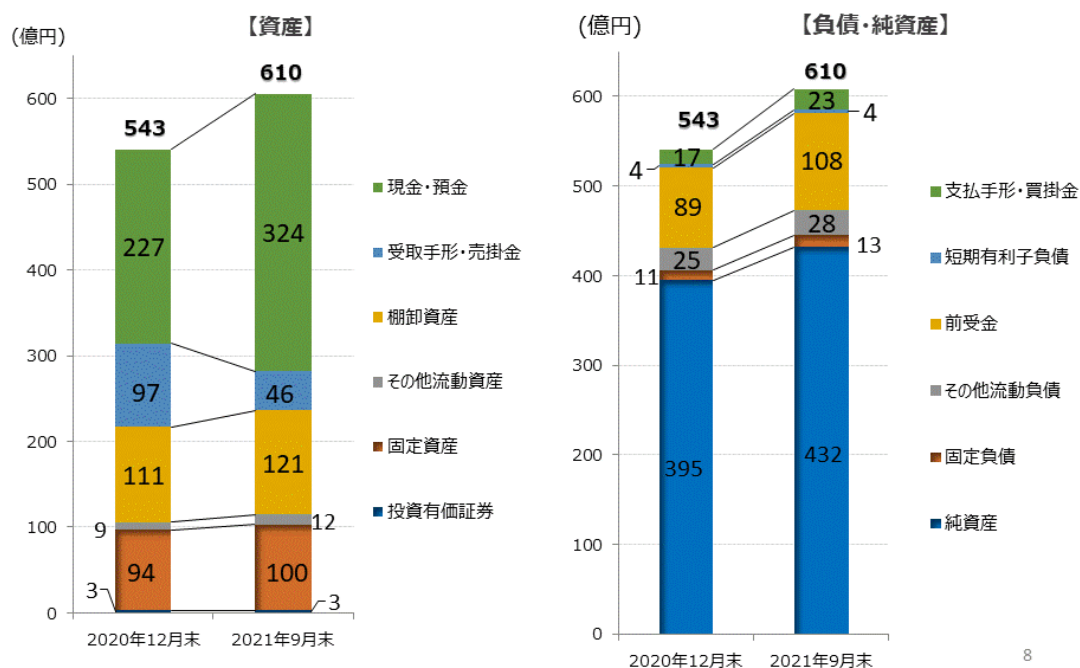
- 第3四半期の売上総利益率は、リピートオーダー装置が多かったという理由もあり、第2四半期比で1.8ポイント減の42.5%でした。引き続き前年度より高い水準を維持しています。
- 素材価格が上昇傾向にある中で、当社3拠点の中で一番安い拠点での部材購入等の対応を進めて、原価上昇の抑制に努めています。
- 販管費は第2四半期比で2億円減少しましたが、第3四半期の営業利益率は、売上総利益率の低下を受けて、第2四半期比で2.1ポイント減の19.7%でした。

4 受注高（四半期毎）



- 第3四半期の受注高は63億円でした。世界的半導体不足やコロナ渦で、お客さまの生産活動やスマートフォンの新機種開発が影響を受けました。前四半期比でマイナス13%減です。
- IoT受注は引き続き堅調を維持していて、主に車載、光通信、医療などです。
- 新型装置の受注は、広角レンズやミニLED向けにALD装置やLED向けの蒸着装置などが貢献しています。

5 連結貸借対照表（2021年9月末）



- 2021年9月末の貸借対照表です。資産の部は現金、預金が97億円増えています。これは売上債権回収が進んだためです。負債の部については前受金が19億円増えています。これは、昨年の第4四半期に比べて、2021年第3四半期の受注が多いことが影響しています。

6 業績見通し



- 世界的な半導体不足や新型コロナ蔓延等により、世界マクロ経済への影響が継続し、弊社顧客の設備投資需要は当初想定を下回り、業績予想を修正（8月24日）。
- 足元、世界的なワクチン接種の進展により、社会経済活動は回復傾向にある中、スマートフォン・ミニLEDを中心に、4Qの受注は、回復の方向に向かっている。
- 計画達成に向けて、売上計上に注力している。また、販管費は、年初計画から3億円削減を目指し全拠点で取り組んでいる。

(億円)

	2020年12月期 実績	2021年12月期 予想	前期比
売上高	374	303	△19.2%
営業利益	86	68	△21.2%
(営業利益率)	(23.0%)	(22.4%)	—
経常利益	86	71	△17.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	67	56	△17.6%
配当予想	50	50	—

9

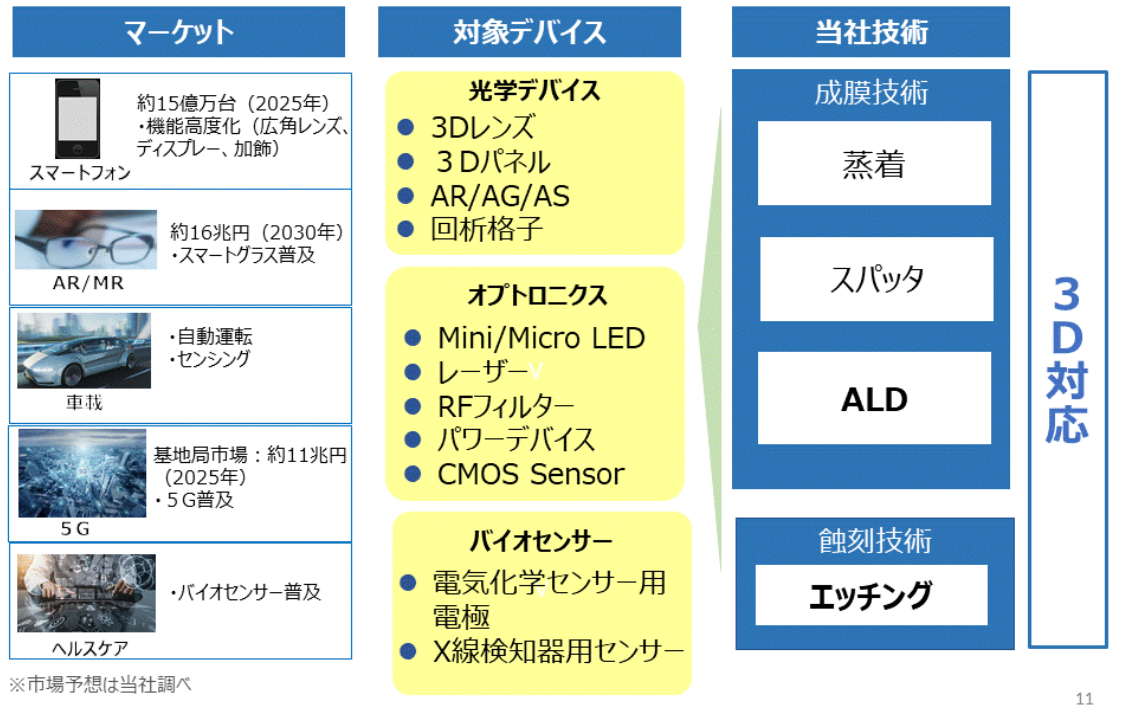
- 今後の業績見通しです。世界的な半導体不足や新型コロナの蔓延等で、マクロ経済の影響が継続して、お客さまの設備投資需要は年初の想定を下回って、業績予想の修正を8月24日に行いました。
- 足元は世界的なワクチン接種の進展で、社会経済活動は回復傾向にある中、スマートフォンやミニLEDを中心に、第4四半期の受注は回復の方向には向かっています。
- 計画達成に向けては、売上計上に注力しています。また販管費については、年初の計画から約3億円の削減を目指し、全拠点で取り組んで目標の達成に向けて動いています。



Ⅱ. マーケット動向

1. 半導体光学融合（成長）+ 3D（差別化）
2. マーケット動向

1 半導体光学融合（成長） + 3D（差別化）








11

- 半導体光学融合という言葉は、当社にとって、ビジネスの今後の広がりを示す意味で重要なキーワードだと考えています。半導体光学融合というのは、半導体の生産方式の下で、半導体デバイス上で光学の機能を付加することを一体で行う動きを意味しています。
- 当社がここで狙うマーケットとしては、従来のスマートフォンに加えて、中長期的に成長ができるAR/VR/MR、車載、5G、ヘルスケアなどです。それらのマーケットに対して当社装置が対象となるようなデバイスは、「光学デバイス」、「オプトロニクス」、「バイオセンサー」などです。当社の提供する成膜技術は、従来からの蒸着、スパッタに加えて、ALDが新たに加わっています。さらに半導体光学融合の動きの機会を最大限取り込むべく、エッチング技術開発にも成功しました。
- 当社では、複雑な曲面などの3D基板成膜技術等での競争優位性を発揮して、成長につなげていきたいと考えています。
- また半導体分野で求められる低パーティクルへの対応にも取り組んでいます。

2 マーケット動向



 スマートフォン	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上の中心はカメラモジュールと加飾。 ● 高解像度及び広角レンズ向けにALD受注が増加。
 AR/MR	<ul style="list-style-type: none"> ● 北米メーカー関連との取引が多い。 ● 東アジアメーカーからも問合せが増えている。
 車載	<ul style="list-style-type: none"> ● 車載カメラ、ヘッドアップディスプレイ、インスツルメントパネル、センサー等多様化が進んでいる。
 5G	<ul style="list-style-type: none"> ● 光通信向け装置は、昨年に引き続き好調を維持。 ● RFフィルター関連は、来年の実用化に向けて開発中。
 ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> ● 人々の健康と安心に貢献のため、バイオセンサーを国内大学と共同開発中。現在、顧客がCFDA認証を進めている。

12

- スマートフォンについては、売上の中心はカメラモジュールと加飾です。また、より鮮明な画像、広角レンズ向けに ADL の受注が増加しています。
- AR/MR は、現在、北米の IT メーカー複数社と、取引を進めています。東アジアのメーカーからの問い合わせも増えてきています。
- 車載については、車載カメラ、ヘッドアップディスプレイ、インスツルメントパネル、センサー等多様化が進んでいます。
- 5G については、光通信向け装置が好調を維持しています。さらに、RF フィルター向けの成膜やエッチングの技術は、来年の実用化に向けて開発を進めています。
- ヘルスケアについては、バイオセンサーを国内の大学と共同開発中です。現在、お客さまの方で、CFDA の認証を進めているところです。

免責事項・注意事項ならびにお問合せ先



当資料に記載された内容は、2021年11月9日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp TEL : 03-6635-9487

13

以上